

I 研究の概要

1 研究主題

「豊かな感性を育み、ともにによりよく生きる児童生徒の育成

～内省と実践をつなぐ道徳授業と評価を通して～」

2 目指す生徒像

豊かな情操と思いやりの心を持ち、集団や社会の一員として、自ら考え、判断し、行動できる生徒

3 主題設定の理由

本中学校区の児童生徒たちは「学校が楽しい」と答える割合が多く、学校行事や校外活動などの体験から多くのことを学ぶことができている一方、自分で考え判断して行動する力の弱さが課題として挙げられる。原因としては多様な生活体験の不足による人間関係を構築する力が弱く、そのため自己肯定感が形成されにくく道徳的諸価値の理解が浅く、自分に引き寄せて考えることができていることが挙げられる。

また、本地区においてもSNS等を用いた誹謗中傷や集団になじめない児童生徒を巡る問題も発生している。そこで、平成30、31年度から全面実施される小中学校の「特別な教科 道徳」への移行期間である今こそ、改正学習指導要領の理解と具現化を学校経営の柱に据え、研修に取り組むこととした。道徳の授業が道徳教育の要としての機能を果たし、児童生徒によりよく生きるための基盤である確かな道徳性が養われるよう、道徳推進教師を中心とした授業の質的、組織的な計画と充実を図ることから研究に着手することにした。人間としての生き方について考えを深めるためには、授業の中での道徳的諸価値の自覚すなわち内省と実践をつなぐ過程が重要であるととらえ、児童生徒の成長を促すための評価を継続的に行う必要があると考え、本研究主題を設定した。そこで、自立した人間として他者とともにによりよく生きる思考や判断、行動の営みを支える基盤となる道徳性を発達段階に応じて体系的に養う必要があると考え、現代的課題を導入しつつ、縦の小中接続、家庭、地域の横の連携に中学校区で取り組むよさを生かし、目指す子供像を「豊かな情操と思いやりの心を持ち、集団や社会の一員として自ら考え、判断し行動できる生徒の育成」と設定した。児童生徒の道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度の育成を重視する必要があるととらえ、「特別な教科 道徳」の実施に向けた実践的研究に取り組むこととした。

4 研究仮説

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己や人間としての生き方についての考えを深める授業と教育活動との関連を工夫すれば、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度が育つだろう。